

世田谷区「教科日本語」を問う！ 第2回学習会

テーマ：「教科日本語」で考える力はつきますか？

日時：3月29日（土）午後2時00分～

会場：らぷらす（11階研修室）

世田谷区北沢 2-8-18 北沢タウンホール内
TEL.03-5478-8021

・小田急線・井の頭線下北沢駅南口徒歩5分
・小田急バス北沢タウンホール下車0分



(1) 講演「教科日本語」の問題点

——深く考える子は育つか

講師 紅野 謙介さん

(日本大学文理学部・国文学科教授)

著書「書物の近代 メディアの文学史」

「投機としての文学 活字・懸賞・メディア」他

(2) 座談会 講演を受けて、教員・親・市民が発言し、

会場との意見交換をします

※資料代 500 円

昨年4月に「教育特区」としてスタートした世田谷区の「教科日本語」は1年がたちました。世田谷区教育委員会は「順調に計画的に実行できた」「子どもたちは真剣に取り組んでおり、保護者の皆様から強い支持をいただき、心強く思っている」と、公言しています。しかし、教室で授業をしている教員からは「小学校1年生から漢詩は難しすぎる」「区教委から指導資料が届くのが遅い。教科書も1か月遅れ」「暗誦ばかりで、授業が単調になる」「中学では、専門外の古典や文学を生徒に教えることに心が痛む」と区教委の言い分とはまったく違う声が聞こえて

きます。小学校週1時間、中学校週2時間の授業の実態はどうでしょうか？「教科日本語」で本当に「考える力を養う」ことができるのかを検証したいと思います。

前回に引き続き、講師は、国文学および国語教育の研究に携わり、高校の現代文の教科書の執筆もされている紅野謙介さんです。「教科日本語」の教科書と指導内容を分析し、その問題点を解明していただきます。

世田谷区民、保護者、教職員のみなさん。そして「教科日本語」に関心のある皆さん。このままでよいわけはありません。ぜひ会場に足を運んで話し合いましょう。

「教科日本語」を考える世田谷区民の会

連絡先：世田谷区教職員組合 気付 世田谷区世田谷 1-41-12 03-3427-8811